

支部だより

珠の冴え

平成27年4月22日

第105号

発行所
 公益社団法人 全国珠算教育連盟
青森県支部
 所在地 三沢市中央町4丁目4-6
 ☎0176 (53) 3662
 支部長 齋藤 隆
 責任者 福士隆行

西北五珠算競技大会を振り返って

西北五地区 田中美子

3月15日(日)、西北五地区大会が五所川原市中央公民館にて行われ、年長から中学生まで138名の選手が参加しました。1月検定終了後、昨年の大会の反省と今年の大会の役割について打ち合せをしました。先生方の高齢化に伴い会場設営の時間に余裕を持ち、それと公民館の備品が新しくなり、準備は例年以上にスムーズでした。又、開会前の打ち合せも余裕を持ってできたので、万全の態勢だったと思います。



順調に個人競技が進行しました。西北五では、4年生以上を自己採点としております。そこでハプニングが…。5年生の暗算の解答が違っていました。会場が少しざわつきましたが、先生方の素早い対応で進行は

予定通り進むことができました。種目別は、昨年から10題中正当数により入賞者を決定する方法をとっております。昨年は、初めてということもあり時間がかかりましたが、今年に入賞者の解答用紙を回収する担当者を決め、優勝以外は入賞という形をとり、競技から表彰まで前年度に比べ時間短縮になったようです。アトラクションとして、支部の協力の下でフラッシュ暗算が行われております。スクリーンに問題と答えの表示が瞬時にできるので、5年生2名が決まらない白熱した戦いは、保護者の皆様にとっても珠算のアピールになっていました。全ての競技が終わり、選手が楽しみにしているビンゴ大会に入り、競技で入賞できなかった選手や低学年はとても喜んでいました。



大会終了後、今年では反省会の時間を設け、団体を組める教場が少なくなってきたこと、経費削減のため団体をなくしては？参加者数が少ない学年・多い学年の入賞者数を変えてはどうか？選手全員を入賞する形で、金・銀・銅賞にしてはどうか？等の意見が出ました。地区の先生方は、選手が来年も参加したいと思えるような楽しい大会にしていきたいと考えています。



旅の思い出 ～鹿児島県・屋久島～



せっかく鹿児島まで行くんだからと支部長に誘われて日本最初の世界遺産のひとつである屋久島へ。レンタカーで数多くの屋久杉を鑑賞できる「ヤクスギランド」へ向いました。山深い曲がりくねった狭い道路を進んでいくと子猿が道の真ん中にちょこんと座っていてビックリ。しばらく行くと今度はかわいい子鹿(屋久鹿)が目の前にあらわれ、じっとこっちを見て林の中に消えました。屋久島の豊かな自然を身近に感じた一瞬でした。対向車が来たら狭くて進めない不安を感じながら、ようやくヤクスギランド入り口に到着。ハイキングコースは4つ。支部長は体力に自信があるので2km80分コース、自分が一番楽な0.8km30分コースで出発。さすが世界遺産だけあって太い杉が多数。けっこう有名な千年杉で、居合わせた若いカップルの方に記念の写真を撮ってもらい、ここで下山。支部長はここからさらに上をめざしました。まさに悠久の大自然、屋久島を心ゆくまで満喫しました。

文章：福士隆行



千年杉を記念撮影!!

H27.5月～7月の 行事予定表

- 5月3日(日)～6日(水)
支部事務局休み
- 5月27日(水)
アメリカンスクール・ソロバノコンテスト (三沢市)
- 5月31日(日)
第367回珠算暗算検定
- 6月21日(日)
珠算(4～10級)・暗算(1～6級)検定
- 6月28日(日)
第46回県下珠算大会兼 第43回東北七県予選 (三沢市青森屋)
- 7月19日(日)
第368回珠算暗算検定
- 7月31日(金)
東北七県大会(秋田県鹿角市)



検定試験 十段合格者

◆第366回検定試験

(平成27年3月22日施行)

【暗算十段位】前田美優 (三沢地区)

第 6 1 回全国珠算研究集会、鹿児島市で開催

講演「薩摩の郷中教育と薩摩焼」・研究発表「そろばん教室に通う気になる子供」

3月29日、鹿児島市民文化ホールに於いて第61回全国珠算研究集会が開催されました。青森県支部からは5名の先生が参加、好天にめぐまれ気温も二十五度近くまで上昇、桜島は一日で30回以上の噴火を繰り返し参加者を歓迎しました。午前10時に生駒利夫副理事長が開会を宣言、梶川眞秀理事長は「鹿児島は明治維新で重要な役割を果たした西郷隆盛などを生んだ薩摩の地です。色々な分野の貴重な講演や発表をご聴講いただき今後に生かしていただければ幸いです」と挨拶しました。



< 桜島も噴火で参加者を歓迎!! >

午前11時からは『薩摩の郷中教育と薩摩焼』と題して、鹿児島県薩摩焼陶業協同組合理事長で西郷隆盛のひ孫にあたる西郷隆文氏が講演、維新のリーダーを育んだ薩摩の郷中教育について話されました。



< 開会式・梶川理事長が挨拶 >

○薩摩の郷中教育… 幕末維新时期に多くの人材を生み出した薩摩藩。その行動力や結束力を育てたのが藩独自の郷中教育だった。郷中とは各地域、町内で年長者(先輩)が教える青少年教育のこと。5歳ごろから20歳ごろ結婚するまで家庭教育以外すべてを指導した。武芸の習得(剣術、槍術、弓術、馬術、相撲など)、教養の習得(質素を学ぶ、模範となる人間の育成)、音楽の指導(薩摩琵琶、天笛)などである。切磋琢磨して育んだ武士道精神、それが「郷中の教え」である。儒教思想に基づいており、人としての道を学ぶものである。知行合一(義にたいして忠実であれ。負けるな、嘘を言うな、弱い者をいじめるな)。薩摩の士魂(勇猛果敢、強い者には向っていけ、弱い者はかばってあげよ)。このような愛情に満ちた教えや習慣は今も広く鹿児島に行きわたっている。



< 郷中教育について語る
西郷隆文氏 >

○薩摩焼について… 1592年(文禄元年)、秀吉が朝鮮に15万の兵を送り込んだ文禄・慶長の役。当時の朝鮮は高い文化をもち、とくに陶器において優れた文化を持っていた。秀吉の死により戦役が終り帰国にあたり九州各藩および長州の大名は競って陶工を連れ戻りそれぞれの領内で窯を焼かせた。その結果として薩摩焼をなどの諸窯が各地に発生した。文禄・慶長の戦役が「焼物戦争」と呼ばれているのはこの事。各大名とも自国領でのみ焼物を焼かせ、それによって産業の振興を図ろうとし、朝鮮から連れてきた陶工(80人)は破格の待遇(帯刀など)を受けたと言われている。400年の歴史がある薩摩焼。近年高齢化や跡継ぎ不足で陶業界は厳しい状況にあるが伝統を守り続けていくため数々の活動を行っていききたい。

昼食休憩をはさみ午後1時40分より『そろばん教室に通う気になる子供』と題し、鹿児島県支部の戸山沙織先生が研究を発表。自身の教室に通う発達障がい者への取り組みを紹介しました。

○発達障がい者への取り組み… 発達障がいには①学習障がい(読む、書く、計算する)②注意欠陥・多動性障がい(集中力、気が散りやすい、忘れっぽい)③自閉症スペクトラム(言葉の遅れ、知的障がい、感覚過敏・鈍麻)がある。小学校2年生の私の姪は自閉症スペクトラムだった。仮死状態で生まれ生死をさまよった結果、脳にダメージを受け、いろいろな障がいがでてきた。知能指数はIQ105で一般的だが普通学級に通いながら週1回特別支援教室に通った。この子の存在が取り組むきっかけとなった。1年生で入塾したA君はいつもビクビクして話することができない、手先が不器用で環境の変化に対応できない、100点をとれないと大泣きして手がつけられない完璧主義者である。このような子への対応として「誉める、まめに話しかける、不安な気持ちにさせない、落ち着くまでそっとしておく」を心がけている。この自閉症スペクトラムは記憶力が良いのが特徴でもある。現在4年生になったが珠算、暗算とも段位を練習している。基本の症状は変わらないが、個性や長所を見つけ、根気強く繰り返し教えていくことと、普通の子と一緒に接して特別扱いしないようにしている。

午後4時からの閉会式では、澤田悦子研修学教委員長が「実りある研究集会になりました」と感想を述べ、次回開催担当の位田秀夫愛知県支部長が「来年は愛知で逢いましょう」と挨拶。平上一孝副理事長の閉会の言葉で幕を閉じました。次回は平成28年3月27日に愛知県名古屋市で開催される予定です。

